

胃がんリスク検診(ABC検診)

胃の健康度に応じて、胃がんになりやすいかどうかのリスク(危険度)分類しています。

A群 おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。

B群 少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

C群 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

E群 ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として定期的な内視鏡検査を受けましょう。

E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

D群

萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談ください。

出展：「胃がんリスク層別化検査(ABC分類)2016年度改訂版 運用の手引き 胃がんリスク層別化検査運用研究会より

※2020年4月1日から、検査ラボでピロリ抗体の検査法、検査試薬が変更となり、基準値も変更されてます。

■対象ラボ：近畿予防医学研究所、FML

【従来法】

		ピロリ (E) 発芽	
		(-)	(+)
		3U/ml 未満	3U/ml以上 10U/ml未満 10U/ml以上
PG法	(-)	A群	B群
	(+)	D群	C群

* 除菌する場合は、必ず他の H_{el} 検査(尿素呼吸試験、便中 H_{el} 抗原測定など)を実施し、ピロリ菌の存在診断を行って下さい。

●対象ラボ：LSIメディエンス 【追加①】
2020.4.1~

		ピロリ (LA) 初発	
		(-)	(+)
		4U/ml 未満	4U/ml 以上
PG法	(-)	A群	B群
	(+)	D群	C群

●対象ラボ：SRL、ファルコバイオシステム 【追加②】
2020.4.1~

		ピロリ (LA) 発効	
		(-)	(+)
		10U/ml 未満	10U/ml 以上
PG法	(-)	A群	B群
	(+)	D群	C群